

# しれとこ の森通信

2006/  
No. 9

100平方メートル運動の森・トラスト



ハウチワカエデの紅葉に染まる、晩秋の森

この用紙は環境保全(資源活用)のため  
再生紙を使用しています。



**NATIONAL TRUST**

知床で夢を育てませんか!

いのちあふれる森を次の世代へ

# 知床世界自然遺産登録

2005年7月。南アフリカのダーバンで開催された第29回世界遺産委員会で、知床の世界自然遺産登録が決定しました。

「しれとこ100平方メートル運動」が開始してから29年。みなさんの多大なご支援を受けてきたこの運動は、世界自然遺産登録の審査において、知床の豊かな自然を保全する先進的な活動として高く評価されました。運動が受けたその評価は、まぎれもなく運動が成し遂げた一つの成果であるといえるでしょう。

知床の世界自然遺産登録は、ひとつの目標への到達かもしれませんが、しかし同時に、世界遺産として果たさなければならない責任も課せられました。

自然保護と利用のバランス、増加するエゾシカ対策、河川環境の改善など、現在の知床が抱えている課題は多く、これらの解決に向けた100平方メートル運動としての取り組みは、今後、世界遺産地域という新たな視点からの評価も受けることとなります。

しれとこ100平方メートル運動として目指す夢。世界自然遺産登録地としての責任。私たちは、またひとつ大きな目標に向かって歩き始めることになりました。

# 平成17年度の 主な作業結果

平成17年度は、岩尾別川右岸に位置する第3区画を中心に作業を行い、防鹿柵の拡張や過去の作業地の現状調査、樹皮保護作業などを実施しました。



## 岩尾別川沿いに残る大径木の保存

シマフクロウが営巣できるほどの太い木々が残っている岩尾別川河畔。森づくり作業では、平成11年度、これらの木々をシカの樹皮剥ぎから守る作業を行ってきました。平成17年度は、これまでにネットを巻いて保護した全ての木々の状況調査を行い、全26本中、23本が無事生育していることを確認しました。次世代の木々が育つまで、これらの大木が果たす役割はとて重要で。森づくり作業では、知床の森に息する動物達の生息環境の保全にも取り組んでいます。



### ● 防鹿柵の拡張作業

平成12年にカシワ林の拡大育成を目的に設置した6m×22mの防風防鹿柵を、26m×30mに拡張しました。新たに確保された植樹スペースでは、苗の植え付け作業も行いました。

### ● 植樹用の苗の育成・管理

シカの採食圧により知床の森で減少が著しいオヒョウニレやハルニレ、ミズキなどを中心に3,000本以上の苗育成のための植替え作業を実施しました。

### ● 樹皮保護ネット巻き作業

これまで、シカ対策として樹皮保護ネット巻きを進めてきましたが、近年、保護木がネット越しに食べられている状況が増加してきました。そのため、これらの保護ネットの補強作業を緊急的に実施しました。

### ● 岩尾別川でのサケ・マス自然産卵促進

これまでは運動の一環として、親魚を買い取り、遡上障壁の上流へ再放流する取り組みを行ってきました。平成17年度は、さけます増殖事業協会の取り組みとして継続実施されました。

### ● 100平方メートル運動推進本部・支部会議の開催

運動開始当初から多大な協力をいただいている、100平方メートル運動の関東支部、関西支部の役員を交えた初めての合同会議を、世界遺産登録を機に斜里町で開催しました。

## 平成17年度作業実績

- 樹皮保護本数：約100本
- サケ・マス再放流数：約2000匹
- 針葉樹植樹数：約700本
- 広葉樹植樹数：約1500本

## イオン環境財団との共同事業

当運動の森づくりでは、平成14年度から5年間の計画で、イオン環境財団との共同事業を実施しています。事業4年目にあたる平成17年度は、晩秋の冷たい雨と吹きつける強風という厳しい天候の中で実施されましたが、イオン環境財団のボランティア203名が集い、防鹿柵の中に約1,000本もの広葉樹苗を植樹しました。



増加したシカの影響により、自然の力だけでは森が育つのは極めて困難な状況になっています。

森の広がりだけではなく、運動としての人の環の広がりも担っているこの事業は、平成18年度まで継続して実施します。

また、平成17年度には、イオン系列の店舗において「知床の森を守る運動」を支援する趣旨で、クリスマスラッピング募金が行われ、イオン環境財団からの拠出金も合せた、高額のご寄付をいただきました。

いただいた寄付金をもとに、緊急に保護が必要な箇所森林に約7haの大規模なシカ侵入防止柵の設置や作業資材小屋の整備を予定しています。

## ボランティア活動状況

平成17年度も、多数のボランティアの方々にご協力をいただき、植樹用の苗の管理や育成を行う苗畑作業、イベントの手伝いや道具の整備など、森づくり作業に関わる様々な作業を手伝っていただきました。



春先に実施される植樹用苗の植替え作業

植樹用の苗は、秋にみなさんの手で森づくり作業地に植えつけられ、その後、厳しい自然環境の中での生存競争を生き抜いていかなければなりません。しっかりと大地に根付く根を作っていくためにも、この作業はとて重要になります。

# 世界自然遺産としての

# 「しれとこ100平方メートル運動地」

2005年7月17日、しれとこ100平方メートル運動地を含む71,000haが世界自然遺産に登録されました。

流氷の影響を大きく受けた特異な海洋生態系と、原始性の高い陸域生態系との見事な相互関係。シマフクロウやシレトコスミレなどの希少種を含む多様な動植物の生息地としての重要性。知床の「生態系」と「生物多様性」の世界的な価値が認められました。また、自然そのものの価値だけでなく、それを長期的に保護・管理する体制の有無が大きな評価基準となる「自然遺産」において、地元が中心となって継続してきた自然保護活動、とりわけ、しれとこ100平方メートル運動の存在は登録を大きく後押ししました。

一度開拓された場所も含めて世界自然遺産登録されたという異例の扱いは、今回の登録が単に知床の自然の素晴らしさだけによるものではないことを、何よりも雄弁に物語っています。

知床の世界自然遺産登録から1年。観光客の急増やそれにとまなう自然への負荷の増大などが顕在化する一方で、科学的な観点から遺産地域の保安全管理を行うために組織された「知床世界自然遺産地域科学委員会」などを中心に、関係機関

が連携しながら各種課題の解決に向けた取り組みが精力的に進められています。

これまで「100平方メートル運動の森・トラスト」の活動の中で私たちが先行して取り組んできた様々な課題が、今、遺産地域全体の課題としても検討されています。

## 利用の適正化を目指して

知床には年間200万人もの観光客が訪れます。貴重な自然環境を質の高い状態で維持するためには、利用に関する様々なルールづくりとその実践が不可欠です。環境省を中心に進められてきた知床国立公園の利用のあり方の検討は、昨年までに「利用適正化基本計画」がまとめられました。今後は、さらにエリアごとの利用のルールづくりが行われる予定です。また同時に、自然環境の保全に配慮した旅行形態であるエコツーリズムの推進事業も行われており、今年度末までには「知床エコツーリズム推進実施計画」が策定されることになっています。一方で、土地所有者や管理者の考え方、また複雑な

利害関係などをいかに調整して進めるかが大きな課題でもあります。

ただし、斜里町が保安全管理するしれとこ100平方メートル運動地では、より踏み込んだ独自のルールづくりが可能です。そして知床国立公園の利用の拠点に位置する運動地のルール確立は、その周辺地域の利用のあり方にも波及します。森林再生計画の長期全体目標のひとつである「トラスト資

産としての運動地の適正な公開と保全のシステムの構築」を目指して、現在、運動地公開プログラムの試行を含めた具体的な検討作業に着手しています。



知床五湖へ向かう渋滞

## 知床世界自

核心地域

緩衝地域

100平方メー



## 河川環境の課題

知床の海と陸の生態系は、河川によって結ばれています。しかし、そこにはサケやマスなどの行き来を妨げる数多くの工作物が存在しています。平成17年度には、遺産地域の主要な6河川の56基の河川工作物について、サケ科魚類の遡上に関する影響評価調査が行われ、このうち10基については、最優先に改良を行う必要があるという検討結果が報告されました。



この10基のうち6基は、運動地を流れる岩尾別川にあります。岩尾別川ではこれまで当運動の生物相復元事業の一環として、サクラマス<sup>①</sup>の再導入や、シロザケ・カラフトマスの自然産卵の促進事業を継続してきましたが、産卵のために遡上するサケ科魚類にとって、河川工作物が障害となっています。河川環境の改善に向けた今後の取り組みが注目されます。



産卵のために遡上したカラフトマスの群れ

## エゾシカとの共生に向けて

遺産地域内の自然植生にあまりにも大きな影響を与え続けているエゾシカをどう管理していくべきか。平成18年度末までに策定を目指す「知床半島エゾシカ保護管理計画」の検討は大詰めを迎えています。シカによる植生への影響は、シカが冬越しのために集まる低標高の森林や草原で著しく、これら越冬地での植生保護対策は急務です。現在、同計画は素案段階まで議論が進み、運動地を含む主要な越冬地ではシカの個体数調整の実施を検討すべきであるとされています。



冬の飢えを凌ぐため、樹皮食いを行うエゾシカ

100平方メートル運動地は、その全体がシカの大越冬地となっており、ここでの森づくり作業がいかに困難であるかは、過去の通信でお伝えしてきたとおりです。運動地でのシカ対策については、100平方メートル運動として平成9年に定めた中期方針で「シカの数の人為的な調整は行わない」とし、防鹿柵やネット巻きなどの手法を中心に森づくりを進めてきました。その後もシカの圧力が年々強まるなか、平成12年度から3年間にわたってシカ対策の集中的な検討が行われ、当面は柵などによる対策を継続するとしながらも、「シカに関する中期方針については5年ごとに再確認を行うこと」「運動地のシカ管理は、知床半島全体のシカ管理計画の中に盛り込む形で検討されるべきであること」などが確認されました。

また、昨年度の森林再生専門委員会会議では、「予想を上回るシカの圧力の現状を踏まえると、方針の転換や個体数調整の検討が必要な時期にきているのではないか」という意見が出されました。

私たちは今、運動地を含む知床のシカ管理について、大きな選択を迫られています。



エゾシカの個体数の増加に伴い、樹皮食いの影響は、これまで食べなかった樹種にまで広がっている。

## 自然遺産登録地



# しれとこの森 交流事業結果

## 《知床世界自然遺産登録記念》 第9回 しれとこ森の集い

昨年は、知床が世界自然遺産に登録されたため、しれとこ森の集いは、『知床世界自然遺産登録記念』と銘打って、9月18日に開催しました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、斜里町ほか、全国各地から150人も参加者が集まりました。午前中は、知床の森を歩くコースや運動地を巡るバスツアー、そして子ども向けのネイチャーゲームなど、3つのプログラムに分かれ、

各々知床の自然を体感していただきました。

午後は、森の番人の指導のもと、参加者全員で約500本のアカエゾマツを記念植樹しました。さらにこの集いの最後には、愛知県の劇団シンテレラと地元峰浜の自然愛護少年団の子どもたちによる、知床の森づくりを伝える寸劇が披露されました。劇が終わると、紅葉がはじまって間もない知床の森に大きな拍手が響き渡り、しれとこ森の集い

は、大盛況のなか幕を閉じました。



数百年後の豊かな森を想い、苗木を植える参加者。是非、また見に来てくださいね！

### 第26回 知床自然教室

知床自然教室には、斜里町をはじめ、全国各地、遠くは海外からの参加もあり、総勢32人の子どもたちが集まりました。今回は、1週間の野外生活のなか、大雨や雷の日があり、知床の自然の厳しさを体感するキャンプとなりました。

みんなで団結して過ごしたキャンプ生活の最後には、涙を流して別れを惜しむ子ども達の姿がとても印象的でした。



H16年度は、悪天候のため羅臼岳での登山泊を断念した登山隊。H17年度は無事に、標高1350mの羅臼平でのキャンプ泊を達成しました！

### 第9回 森づくりワークキャンプ

森づくりワークキャンプは、11月1日～6日の日程で、11名の方に参加いただきました。うっすらと雪をまとう知床連山の麓で、今年も参加者全員で協力し合い、防鹿柵づくりや植樹作業などに

汗を流しました。また、作業の間には森の番人と森を散策して、知床の森の魅力に触れたり、宿舎ではひとつ屋根の下で夜遅くまで夕食を囲み語り合ったりするなど、知床にじっくり浸る6日間となりました。



1巻で100mもの長さがある防鹿柵のフェンスを運ぶ参加者。柱建てからフェンス張り、さらには自分達で建てた柵の中に植樹作業も行いました！

## 運動地公開プログラムの試行

当運動の森林再生計画の3つの長期全体目標のひとつが「トラスト資産としての運動地の適正な公開と保全システムの構築」です。その一環として、運動地を運動参加者に限定的に公開する上記3本の「交流事業」が毎年行われていますが、目標達成のためにはこれだけでは不十分です。運動の歴史や成果を正しく伝え、新たな人々の理解を獲得してさらなる運動の発展を目指すためには、運動地を舞台にしたより多くの交流の場を設定する必要があります。しかし、寄付に基づく事業費で実施される交流事業をこれ以上拡大することは、本来の森づくり事業を圧迫することになってしまいます。

そこで、昨年からの検討を開始したのが、必要経費を負担してもらった上で、運動に興味のある方、より深く運動を知りたい方などを受入れる、新たな運動地公開プログラムの設定です。数時間の散策から丸1日の森歩き、また泊まりがけの森づくり体験メニューなど、参加者のニーズに合わせたプログラムを数多く配置して、運動地の適正公開手法の充実化を目指しています。

平成17年度は、この公開プログラムを数回試行し、改善点等を検討しました。平成18年度は、「100平方メートル運動の森体験」として、より多くのプログラムを試行し、今後の適正公開システム構築のための検討材料を収集する予定です。



森づくり作業が行われている開拓跡地を舞台に、開拓の歴史や運動の取り組みを伝える活動を試行的に開始しました。

## 平成17年度決算

### ■ 保全管理事業

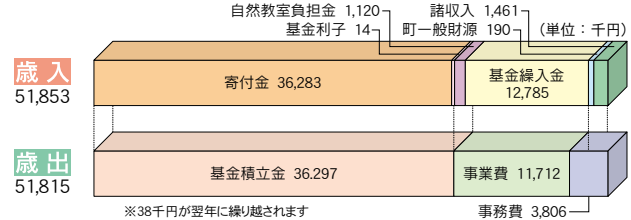
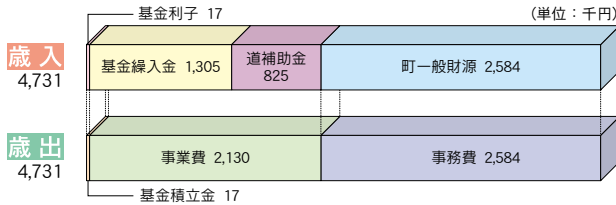
事業費は、運動地の下刈りなどで約213万円を支出しました。事務費は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用で約258万円です。

保全された土地の現状 (単位: ha)

運動地面積	861.90	保全済み地域	849.98
		(寄付金による取得地	459.26)
		(既存町有地	390.72)
		今後の取得対象地	11.92

### ■ 森林再生事業

森林再生のための事業費として、総額約1,171万円を支出しました。森林再生の現地作業や森の交流事業の企画運営、森の通信の企画編集、森林再生専門委員会の運営などを知床財団に委託して実施しました。また、主な事務費はパンフレット等の印刷や消耗品類、受付事務員の賃金など約380万円です。



### ■ 森林保全基金の状況

国立公園内森林保全基金の状況

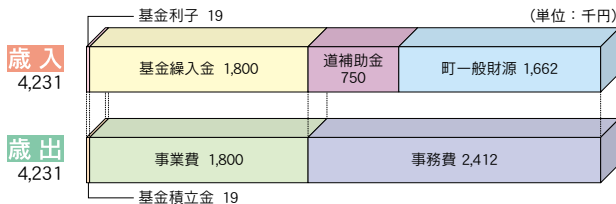
(単位: 千円) (平成18年6月1日現在)

		国立公園内森林保全基金					国立公園内森林保全基金		
		土地保全管理資金 (保全事業のための資金)					森林再生等資金 (再生事業のための資金)		
		H16年以前	H17年	計			H16年以前	H17年	計
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	歳入	寄付金	130,848	36,283	167,131
	利息	67,922	18	67,940		利息	426	14	440
	計	590,456	18	590,474		計	131,274	36,297	167,571
歳出	土地取得	325,113	0	325,113	歳出	事業費	91,979	10,592	102,571
	植林等事業	127,440	1,305	128,745		事務費	23,003	2,193	25,196
	事務費	81,543	0	81,543		計	114,982	12,785	127,767
残高		534,096	1,305	535,401	残高		16,292	23,512	39,804
		56,360	△1,287	55,073					

## 平成18年度予算

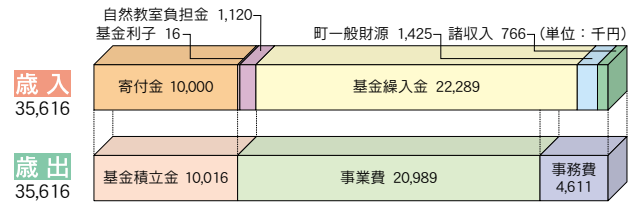
### ■ 保全管理事業

事業費として、主に植樹後10年以内の地域で下刈りを実施し、道補助を含めて180万円を支出予定です。事務費241万円は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用に支出します。



### ■ 森林再生事業

事業費は、森林再生の現地作業や森の交流事業の企画運営などに1,142万円を支出するほか、シカ侵入防止柵の設置工事費等として957万円を支出予定です。事務費は、事務員賃金(159万円)やパンフレット類の印刷費用(72万円)など約461万円です。



## NATIONAL TRUST The Shiretoko 100m<sup>2</sup> Movement

## 100平方メートル運動の森・トラスト

# たくさんの寄付をありがとうございました

平成17年度には、3ページでご紹介した(財)イオン環境財団からの寄付金や、各地のふるさと斜里会などたくさんの方から世界自然遺産登録を記念しての寄付金をいただきました。定年までの一年間、毎月ご寄付をいただいた方もいらっしゃいました。亡くなられた奥様のご遺志で高額のご寄付をいただいた方もいらっしゃいました。その他、全国のたくさんの皆様からご厚意を寄せていただきましたことに、あらためて心より御礼申し上げます。



# 知床で夢を 育てませんか!

数百年後の豊かな知床の森と生物相の復元に向けた取り組みは、皆様から寄せられる毎年の寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

## ●運動に参加するには?

申込書を郵送またはファックスにてお送りください。ホームページからの申し込みもできます。

寄付金は1口5,000円で、何口でもけっこうです。郵便振替が現金書留で斜里町役場までお送り下さい。

### ●郵便振替の場合

口座番号：02740-8-10555

加入者名：斜里町役場

### ●現金書留の場合

申込書も同封の上、斜里町役場自然保護係へ直接郵送願います。

## ●運動に参加すると!

- 将来の知床の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- ご寄付いただいた年の活動状況を、翌年に「しれとこの森通信」でお知らせいたします。
- 運動地の森を通じて交流し、森づくりにたずさわる機会(しれとこの森交流事業)を提供します。
- 5年周期の森づくり計画が一巡する毎に報告書をお届けします。次回は平成20年にお送りします。



## ネットであつなかる しれとこの夢の森

運動地におけるニュースや自然情報などを更新しています。HPから運動参加申し込みもできます。

URL <http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

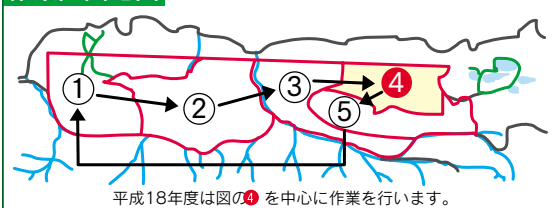


# 平成18年度の主な作業・交流事業予定

本年度は、岩尾別台地東側の第4区画を中心に作業を行います。

- 自然の種子散布による樹種の転換を目的に、5年前に植林地を密度調整した場所があります。その変化を調べるため、植林地の毎木調査を実施します。
- 平成10年にシカの食圧から守るため、山から苗畑へ緊急的に避難させていた木々を、防風林の育成が必要な箇所に植えつける作業を実施します。
- 平成12年に防風林育成を目的として、風衝地に設置した防風防鹿柵が老朽化してきました。平成18年度は、柵の拡張を含めた改修作業を実施します。

### 作業区画地図



## インフォメーション

### ●森林再生専門委員会議の石城座長が辞任されました。

森林再生専門委員会議の初代座長として、知床の森づくりを進めていただいた石城謙吉座長が健康上の理由から辞任されました。9年間にわたり、森林再生事業の立ち上げにご尽力いただきましたことに対し、紙面をかりて心より感謝申し上げます。

### ●森通信の発送停止希望については、斜里町役場にご連絡下さい。

近年、通信物の発送を希望されない方から、発送停止についてのご連絡をいただくことが増えてまいりました。今後の通信物等の送付を希望されない方については、お手数ですが、斜里町役場までご連絡ください。

## ●知床自然教室 7月30日～8月5日

知床の原生林に抱かれた1週間の野外生活。ベースキャンプを作って海・山・川へ、アウトドアのエキスパート達が引率。



応募締切  
間近!!

参加費：35,000円 (現地までの交通費は別途必要です)

対象：小学校4年生～高校3年生 締切日：7月9日

お問合せ：知床自然センター

Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115

## ●しれとこの森の集い 9月17日

午前中は森の番人の案内で森づくり作業地の見学。午後は記念植樹祭。どちらか一方のみの参加も可能です。



参加費：無料

お問合せ：斜里町役場自然保護係

Tel 0152-23-3131 Fax 0152-22-2040

## ●森づくりワークキャンプ 11月1日～11月6日

スタッフと寝食を共にしながら、現場で森づくり作業に打ち込む6日間。12名限定、早いもの勝ちです。



参加費：18,000円 (現地までの交通費は別途必要です)

対象：18歳以上 定員：12名

締切日：10月20日※ただし先着順で定員になり次第締め切ります。

お問合せ：知床自然センター

Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115

## お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地 斜里町役場自然保護係  
TEL 0152-23-3131 (内線125) FAX 0152-22-2040